

## 1. はじめに

2か年にわたる土橋遺跡の発掘調査は、9月15日（火）に無事終了しました（第1図）。調査期間中、近隣の皆様にはたいへんご不便をおかけしました。ご理解とご協力に感謝いたします。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年は現地での一般公開を行うことができませんでした。その代替りとして、9月14日（月）より、発掘調査の成果『よみがえる土橋遺跡』を動画配信しています（YouTube「阿賀野市公式チャンネル」を検索してください）。

約10分の動画は、発掘調査の成果、特徴的な出土品など盛りだくさんな内容です。また、4K画像でほんとうに遺跡がよみがえるようにきれいな仕上がりになっています。タイトルコール・ナレーションには、市内小中学生の皆さんからもご協力いただきました（第2図）。ぜひご覧ください。

発掘調査の成果、動画配信の試みについては、新聞・テレビ・ラジオなどでも大きく取り上げられ、とても注目される遺跡になりました（第3図）。



第1図 下面 完掘状況



第2図 動画ナレーション録音後のようす

## 2. 発掘調査について

これまで「発掘調査だより」、「動画」などを通じて、発掘調査の成果についてたくさんご紹介してきました。しかし、あまりにすごい遺跡のため、お伝えしきれなかった部分があります。

今回、最終号で2つの成果をご紹介したいと思います。

### (1) 縄文人の骨？が出土

調査の終盤になって、90cmほどの穴から人骨がまとまって出土しました（第4・5図）。

人骨は焼かれています。胸椎（きょうつい）・鎖骨（さこつ）・上腕骨（じょうわんこつ）などが良好な状態で残っていました。

人骨については、新潟医療福祉大学の奈良貴史先生に現地で見いただき、ご指導を受けました。現時点で、①複数人の骨であること、②高温・低温など焼きムラがあること、③今のところ頭蓋骨がないこと、などがわかっています。どこか別な場所で焼かれた骨を集めて、1か所にまとめて埋めたものかもしれません。奈良先生によれば、これほど残りの良い縄文時代後期前半の人骨はとてもめずらしく、第一級の資料であるということです。



第3図 取材のようす

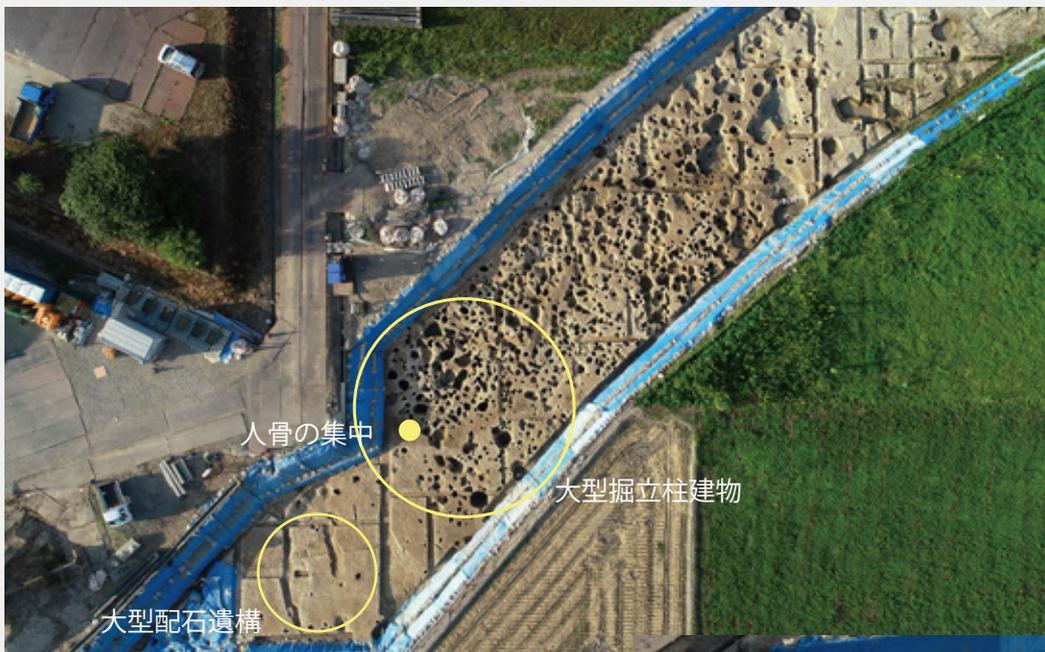
## (2) 大型の建物跡？を発見

「マツリ・生活の場」ではたくさんの穴が発見されました。これらの多くは建物の柱穴と考えられます。そのなかで、ひときわ大きな穴が見つかりました。穴の大きさは直径 1.5m、深さ 0.7～1mもあります。この大きな穴が同じような間隔で2列並んでいます。真ん中にはもう一列、少し小さな穴も並ぶことがわかります（第4・6図）。

もしも、これらの穴が建物の柱穴であれば、長さ 14m× 幅 5mもの大型の建物になります。「縄文時代にそんな大きな建物?!」と思われるかもしれませんが、村上市長割遺跡では、ほぼ同規模の大型建物が発見されています。柱の規模・配列なども土橋遺跡とそっくりです。

このような大きな建物は、住む家ではなく、何か特別な役割を持った建物なのかもしれません。そのことを暗示するように、大型建物は「生活の場」と大型配石遺構が発見された「マツリの場」（「たより7月号」参照）との境界に位置します。また、人骨はこの建物の隣に埋められていました。ここから西側は、人びとが祈りを捧げる神聖な場所だったのです。

これまでご紹介できなかった2つの成果についてご紹介しました。この2つの成果については、未だ不明点が多く、確実なことではありません。そのため「？」が付いています。今後、様々な側面から検証作業を行い、あらためてご報告したいと思います。



第4図 大型の掘立柱建物と人骨の集中



第5図 人骨の出土状況



第6図 大型の掘立柱建物